

教育目標：心豊かに たくましく伸びていく子供



干布小学校だより

9月号 H30.9.27

天童市立干布小学校

校長 三好 義宏

前期後半を終えて



二期制の本校ですので、今日が前期の最終日となります。3連休で気持ちを切り替えて、後期の始業式を迎えてほしいと願っています。終業式で子供向けに話をしましたので、引用させていただきます。

干布小の壁の校章にペンキが塗られたのに気が付きましたか。地の色は青系の「天色」と、マークの色は黄色系の「菜の花色」に塗られています。皆さんと、家族の方と合わせて461名が選んだ組み合わせで、「あまいろ」と「なのはないろ」が干布小のイメージカラーと決まりました。天色と菜の花色なんて、このカラーからたくさん空想がふくらみますね。今度、皆さんにこのカラーから、「どんな干布小にしたいのか」お尋ねしますので教えてください。

さて、干布小の合言葉は「つなが」「問いかける」でしたね。12月まで、皆さんと先生とで一緒に頑張っていくことは、友達としっかりつながることと、読書に取り組むことでしたね。どうですか、つながったり・問いかけてたりしていますか。まだ3か月ありますので、あきらめずにこの二つにきちんと取り組んでほしいと思います。

今日はペルシャの昔話を紹介します。『アリババと40人の盗賊』です。昔々、主人公のアリババが、たまたま洞穴にある盗賊の金や銀のお宝を見つけて、大金持ちになります。兄のカシムは、弟のアリババから洞穴の扉を開ける呪文を聞きだします。カシムは洞穴に向かい、「イフタフ ヤー シムシム」と唱えようとすると扉が開きます。洞穴の中でたくさんの宝を見たカシムは舞い上がってしまい、呪文を忘れてしまいます。出られなくなったカシムは盗賊たちに見つかり、やっつけられてしまいます。しばらくして、宝を横取りしたアリババの所に、ロバに背負わせた油壺に盗賊が隠れてやってきます。アリババの女召使のモルジアナは、盗賊に気づきます。油が本当に入った油壺を見つけると、そおっと油を抜き出します。鍋でぐつぐつと煮え立たせ、油壺に注ぎ込み、隠れていた盗賊たちをやっつけます。

さて問題です。今から12年後は2030年です。今の1年生も18才になって成人、大人になっている年です。その2030年に向けて、先生方は皆さんに力を付けてあげようとしています。アリババ、カシム、モルジアナ三人のうち、誰のような力を付けようとしているのでしょうか。アリババはたまたま金持ちになったので問題外ですので、二人に絞られます。兄のカシムと、女召使モルジアナどちらを目指すのでしょうか。カシムは、暗記したことのみで危機を乗り越えようとし、失敗します。モルジアナは、気づいた情報をもとに作戦を練り主人を危機から救おうとします。そうですね、人をやっつけることは好ましいことではありませんが、モルジアナのように情報を生かして課題を解決できる力が求められているのです。答えがすぐに見えてこなくても、何とかして乗り越えようとする力です。

外国の昔話ですが、見方を変えると、面白いことが見えてくるのです。

これからは、賢いモルジアナのような力を持てるように、先生方と生活していきましょう。

伝統の相撲大会開催

9月8日は、雨天のため体育館で相撲大会を開催しました。古色豊かな土俵入りと、力のこもった取組が行われました。5、6年生は男女とも役割を持って参加できたようです。5人抜きの子供（1年：はちやたける 2年：もりやこう・いんでんあやね

3年：大井惣壺 4年：水戸部悠真 5年：花輪優芽 6年：奥山拓紀・水戸部紗彩）



には、教育後援会長よりメダルが授与されました。

奉仕作業・引き渡し訓練 ご協力に感謝です

8月26日はPTA奉仕作業でたくさんの方から、校舎内美化にご協力いただきました。お陰様で、気持ちよく使える校舎になりました。また、相撲大会後の引き渡し訓練にも参加いただき、児童の引き渡しがスムーズに実施できました。保護者の方々のご協力に、感謝申し上げます。

終業式では、2年水戸部そらさんと4年花輪芽依さんから、前期をまとめる作文発表があり、しっかり自分の考えを述べました。